

液体窒素汲取作業手順書

(小型容器向け)

！超低温・大量気化に注意！

！防護メガネ・革手袋を着用！

バルブや各接合部のゆるみや液漏れ等を点検し、記録する。異常が見られた場合、すみやかに専門部会委員等に報告すること。

液面計(LI-1)で液面高さを確認し、10 mmAq単位(液体窒素 10 リットル)で汲み出し簿(タンク内容量・汲出前)に記入する。

1,300 mmAq を下回ったら、自主的に経理第三係(内 7078)に連絡し、タンクローリーの手配を依頼する。納期は手配後約3日間かかる。連絡後「経理第三係に連絡済み」のプレートを液面計に掛けておく。

記録簿の追加用紙は、各バイндаの最後に綴じてある。

貯槽内圧を圧力計 (PI-1) で確認し, その値を 0.1 kg/cm^2 単位で汲み出し簿 (タンク内圧・調整前) に記入する.

右側の汲み出し用ノズルを, フレキシブルホースに無理のない状態で容器に差し込む.

液取出弁 (L-6b) を少しづつ静かに開ける. 配管や金属フレキシブルホースが冷えるまで, 暫くは高圧のガス状態で出てくる.

(ガス体積 = 液体体積 \times 650 倍)

操作には必ず乾いた革手袋を使用すること. 液体窒素の吹き出しや飛散に注意. 吹き出しの状態を確認しながら液取出弁の開閉状態を調整する. 低温金属部分に直接手や皮膚, 塗れた革手袋で触ると凍傷になる恐れがある.

必要量を取り出したら液取出弁をしっかりと閉め, ノズルを専用スタンドにもどす.

再び液面計 (LI-1) で液面高さを, また貯槽内圧を圧力計 (PI-1) で

確認し、汲み出し後および調整後として各値を管理簿に記入する。
またその他の必要事項を記入する。

講座別汲み出し簿に必要事項の記録を行う。分野名を間違わないこと。

退出前に液取出弁を再点検する。

(大型容器の充てんについては付属マニュアルを参照のこと。)

必見ホームページ

<http://www.poly.kit.ac.jp/kitliqn2/index.html>

液化窒素の性質、貯槽取扱法などの詳しい情報を掲載

各手順を遵守しない場合、そのサイトの使用許可を取り消す。

平成 16 年 7 月 京都工芸繊維大学
液体窒素管理運営専門部会